



園だより

3月号

3月の聖句

光の子として歩みなさい



エフェソの信徒への手紙 5章8節

花壇のポピーやデージー・パンジーの花々が咲き始め、暖かな春がもうそこまで来ています。何年振りでしょうか？2月初めに雪が積もり、翌日安全のためバス運行が出来ず自由登園となり、少ない人数でしたが、“かまくら”や“雪だるま”を作って大喜び。次の日も凍った雪に覆われた園庭にみんな大興奮！転ばないようにその感触を確かめ、集めてビルに！砂場ではカップに入れてかき氷屋さんと雪で遊んだかけがえのない2日間でした。

年長さんから飼育と放送のやり方を教えてもらっていた年中さん、うさぎとチャボの餌作りや小屋の掃除のやり方を教える年長さんも見習う年中さんも真剣でした。

マイクを前にドキドキしながら♪ピンポンパンポン♪の合図で「お帰りの放送です。止まって聞きましょう。」で放送が始まると、園中の子ども達はどこにいてもその場で立ち止まり静かに聞きます。「もうお帰りなので、遊んでいるおもちゃを片付けて自分のお部屋に戻りましょう。」と続き、各学年の明日の予定や今日の出来事などを交代で話し最後に自分の名前を言って終了です。職員室のドアの前では年中さんが心配そうに見守っています。「上手だったよ！」と当番以上に安堵しています。

16日には引継ぎ式を行いました。「チャボの口は小さいので野菜はちぎってね。」「台を掃除するときは小さなホウキとちりとりを使ってね。」「うさぎ係は放送も忘れないでね。」・・・「来週から飼育と放送をよろしくお願いします。」の言葉に年中さんは「頑張ります！」と頼もしい返事！係の道具を渡し、年中さんは「うたえバンバン」年長さんは「魔法の扉」を歌い、双方の心を込めた歌声（さふらんの子たちは本当に歌が上手！）に胸が一杯になりました。このような形で飼育（動物の命を預かる）と放送（園全体の司令塔）の仕事長く大切に繋いで、次へと受け継いでできました。

22日にはバンダナを付けた年長さんの“お店屋さん”が開店です！（ナーサリーも含め全園児が参加）お楽しみ給食用のパンやジュース・ゼリー・きな粉あめ・手作り品など本物を買えるとあってワクワクしながらお店を回り、買った品物で給食です。キッチンから唐揚げとウインナー、スープとサラダも加わりいつもと違った食事に大満足でした。

早3月、今まで沢山の交流のあった年長さんはもうすぐ卒業です。年中少さんは心を込めて「お別れパーティー」の準備をします。さくらんぼさんはりんごさんと一緒に「もうすぐ年少パーティー」を開きます。年長さんは、皆の思いに添った卒業式になるよう話し合いながら準備を進めます。

感染症も下火になりましたが、これからも手洗いうがいなどに留意しながら残り少ない日々、元気に過ごして欲しいと願っています。



今月の聖句、光の子は神様の子どもです。巣立つ年長さんにとって今まで覚えてきた聖句の一節が、これからの人生でどんな時にか思い出されると嬉しいです

